

トヨタ記念病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年 4月 策定

【トヨタ記念病院の基本情報】

医療機関名：トヨタ記念病院

開設主体：企業立病院（トヨタ自動車株式会社）

所在地：愛知県豊田市平和町1丁目1番地

許可病床数：513床

（病床の種別）一般病床513床

（病床機能別）高度急性期182床、急性期331床

稼働病床数：513床

（病床の種別）一般病床513床

（病床機能別）高度急性期182床、急性期331床

診療科目（届出標榜科）：

内科、精神科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、
脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、肛門科、産婦人科、眼科、
耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、神経内科、リウマチ科、リハビリテーション科、
歯科口腔外科、心臓血管外科、病理診断科、内分泌・糖尿病内科

職員数：1,109名（2018年4月1日現在）

- ・ 医師 174名
- ・ 看護職員 648名
- ・ 専門職 219名
- ・ 事務職員 68名

【1. 現状と課題】

① 構想区域（西三河北部医療圏）の現状

■人口の見通し

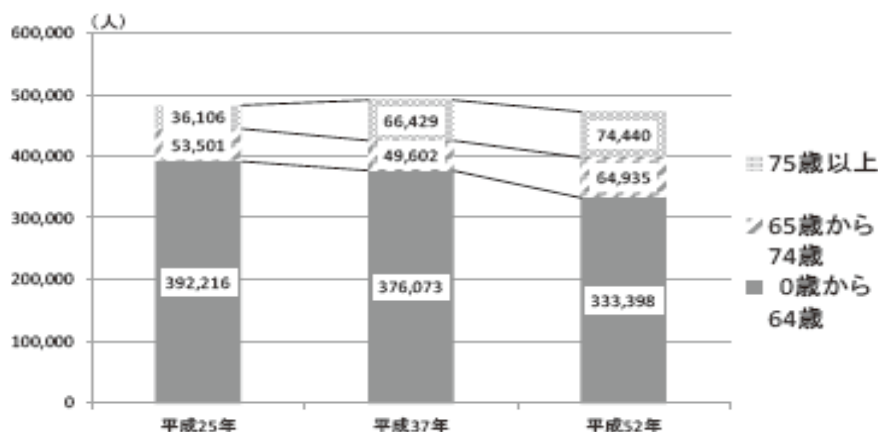
- ・総人口は、平成37年(2025年)までは微増し、平成52年(2040年)には微減。
- ・65歳以上人口は、県全体の増加率を大きく上回り、増加率は県内の2次医療圏で最大となっている。特に75歳以上人口は、平成52年(2040年)には平成25年(2013年)の2倍になると見込まれている。

<人口の推移>

※（ ）は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
西三河北部	481,823 (1.00)	492,104 (1.02)	472,773 (0.98)	89,607 (1.00)	116,031 (1.29)	139,375 (1.56)	36,106 (1.00)	66,429 (1.84)	74,440 (2.06)

<西三河北部構想区域>



■医療資源等の状況

- ・人口10万対の病院の病床数は、県平均の73.3%と少なく、療養病床は61.1%と特に少ない。人口10万対の医療従事者数については、医師数が県平均の70.5%と少ない。
- ・DPC 調査結果（DPC 調査参加施設：当院を含む2病院）によると、構想区域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害）及び高齢者の発生頻度が高い疾患（成人肺炎・大腿骨骨折）の入院実績があることから、区域内に急性期入院機能を有している。
- ・消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC 調査データに基づく緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂、脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷）の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされているが、東部の地域においては、所要時間が長くなっている。

- ・ 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、構想区域内（当院を含む2病院）において、救命救急入院料・特定集中治療室管理（ICU）・新生児特定集中治療室管理料（NICU）・新生児治療回復室入院医療管理料（GCU）の届出がされている。

＜医療資源等の状況＞

区分	愛知県①	西三河北部②	②/①
病院数	325	18	—
人口10万対	4.4	3.7	84.1%
診療所数	5,259	260	—
有床診療所	408	17	—
人口10万対	5.5	3.5	63.6%
歯科診療所数	3,707	183	—
人口10万対	49.9	38.0	76.2%
病院病床数	67,579	3,211	—
人口10万対	908.9	666.4	73.3%
一般病床数	40,437	1,929	—
人口10万対	543.9	400.4	73.6%
療養病床数	13,806	547	—
人口10万対	185.7	113.5	61.1%
精神病床数	13,010	729	—
人口10万対	175.0	151.3	86.5%
有床診療所病床数	4,801	221	—
人口10万対	64.6	45.9	71.1%

区分	愛知県①	西三河北部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	672	—
人口10万対	197.9	139.5	70.5%
病床100床対	20.3	19.6	96.6%
医療施設従事歯科医師数	5,410	281	—
人口10万対	72.8	58.3	80.1%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	605	—
人口10万対	141.6	125.6	88.7%
病院従事看護師数	36,145	1,927	—
人口10万対	486.1	399.9	82.3%
病床100床対	49.9	56.1	112.4%
特定機能病院	4	0	—
救命救急センター数	22	2	—
面積(kmf)	5,169.83	950.51	—

- ・ 平成25年度(2013年度)NDBデータに基づく特定入院料の自域依存率は高い状況。入院患者の自域依存率は、4機能とも80%前後と高い。

＜平成25年度の西三河北部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地												合計		
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河東部東	西三河東部西	東三河北部	東三河東部		県外	
西三河北部医療圏	高度急性期	20	*	*	21	*	*	*	192	*	13	*	*	*	246
		8.1%	—	—	8.5%	—	—	—	78.0%	—	5.3%	—	—	—	100.0%
	急性期	34	*	*	49	*	*	*	590	10	33	*	*	*	716
		4.7%	—	—	6.8%	—	—	—	82.4%	1.4%	4.6%	—	—	—	100.0%
	回復期	30	*	*	36	*	*	*	542	35	42	*	*	*	685
		4.4%	—	—	5.3%	—	—	—	79.1%	5.1%	6.1%	—	—	—	100.0%
慢性期	17	0	0	39	0	13	*	359	*	32	0	11	*	471	
	3.6%	—	—	8.3%	—	2.8%	—	76.2%	—	6.8%	—	2.3%	—	100.0%	

＜平成 25 年度の他医療圏から西三河北部医療圏への流入入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河東部東	西三河東部西	東三河北部	東三河東部	県外		
西三河北部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	192	*	*	*	*	*	192
		—	—	—	—	—	—	—	100.0%	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	*	*	*	11	*	*	*	590	21	12	*	*	*	634
		—	—	—	1.7%	—	—	—	93.1%	3.3%	1.9%	—	—	—	100.0%
	回復期	*	*	*	12	*	*	*	542	20	14	*	*	*	588
		—	—	—	2.0%	—	—	—	92.2%	3.4%	2.4%	—	—	—	100.0%
慢性期	29	*	0	26	*	*	16	359	14	23	0	0	*	467	
	6.2%	—	—	5.6%	—	—	3.4%	76.9%	3.0%	4.9%	—	—	—	100.0%	

② 構想区域の課題

- ・平成52年(2040年)まで65歳以上人口の増加率が県全体と比べて著しく高いため、平成52年(2040年)までの医療需要の増大を見据え、必要な医療需要や医療従事者の確保を始めとする包括的な医療提供体制を中・長期的に考えていく必要がある。
- ・へき地対象地域を抱えており、面積が広大なため救急搬送所要時間も長くなっており、医師を始めとする医療従事者の確保や救急搬送体制の充実など、へき地医療を確保する必要がある。
- ・回復期機能の病床を増やし、急性期病院との連携の強化が必要である。

③ 自施設の現状

■理念

- ・『笑顔』と『まごころ』あふれる病院 ～Smile & Heart～

■基本方針

- ①お客さまと共に向き合う医療の実現
- ②安全かつ良質な医療の提供
- ③地域社会への貢献
- ④生き活きと働きがいのある病院

■主な診療実績(2017年度)

新入院患者数 1,185名/月 平均在院日数 10.9日 病床稼働率 86.5%

■当院の特徴

- ・地域医療支援病院
- ・災害拠点病院（地域災害医療センター）
- ・救命救急センター
- ・愛知県がん診療拠点病院
- ・エイズ治療拠点病院
- ・地域周産期母子医療センター
- ・DPC対象病院
- ・高度医療機器による診療を実施
ダビンチ（ロボット手術）、サイバーナイフ（放射線治療）、TrueBeam（放射線治療）
- ・付随業務として、看護師養成学校、健診センターを有する

④ 自施設の課題

- ・『笑顔』と『まごころ』あふれる病院を作ることによって、地域に貢献したい。
- ・当院が属する西三河北部医療圏では、2040年に向けて高齢化の急速な進展が予想され、地域の医療需要が急増し医療密度上昇が予想され、ICT活用、更なるチーム医療、働き方見直しへの対応が重要。
- ・今後の急性期医療の増加に对应していくために、手術室増等を織り込んだ、新病院建替を推進中（2021年度中に開院目処）。
- ・急性期から回復・慢性期までを含めた一体的な医療提供体制の構築に向けて、地域医療ネットワークシステムの導入が必要。
- ・高齢者増加に伴う医療需要の増加を踏まえた新病院建替がある中、慢性的に医療従事者（特に看護師）の不足が課題。
- ・へき地対象地域の医師を始めとする医療従事者の支援や救急搬送体制の充実（ヘリポート、ドクターカー対応等）。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・当医療圏での医療需要は今後も増加が予想され、当院は地域の中核病院として、地域包括ケアシステムにおける高度急性期・急性期を担い、地域の医療機関等との連携をさらに強化していく。

<具体的な取組み>

新病院でのチャレンジ

1. 高度急性期の医療の質向上

- ①救急医療の拡充…血管外科の創設、手術室、GICU、麻酔科の拡充
- ②総合内科の充実
- ③がん診療の充実…ゲノム医療への取組
がん緩和ケアの充実…緩和病棟新設
- ④脳卒中・心疾患診療の充実…ハイブリッド手術室導入
- ⑤周産期医療の充実…MFICU と同等な周産期センター整備
- ⑥小児医療の充実…NICU 機能拡充と体制整備

2. CS No.1 病院に向けて

- ①光、空気の循環による明るく快適な環境
- ②「入院用ロビーおよび患者ラウンジ」機能の充実
- ③駐車場およびエントランスの快適さの追求

3. 地域支援病院として地域の医療機関の職員教育の充実

4. BCP 対応…免震、ヘリポート、約 3,000 人の被災者受入スペース

② 今後持つべき病床機能

●高度急性期・急性期病床機能

- ・当医療圏は入院患者の自域依存率が高い地域である。近隣の医療圏も同様に2025年に向けて人口が微増または横ばいで推移しており、他医療圏への流出は限度があり、また流出を防ぐことも期待されている。今後も高度急性期・急性期病院として、地域完結が出来る様に当医療圏の患者を支えていく必要がある。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成29年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	182床	→	190床
急性期	331床		337床
回復期			
慢性期			
(合計)	513床		527床※

※当院は527床への病床数拡大を平成29年に申請し、承認された。2018年半ばに施行予定。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	・ 地域支援病院認定	現在513床	
2018年度	・ 病床数拡大	・ 527床	
2019～2020年度	・ 手術件数拡大	・ DPC特定病院群認定	
2021～2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新病院完成・稼働開始 ・ 手術室数増加 ・ 緩和ケア病棟新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年末稼働 ・ 13床(現在8床) ・ 14床 	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

▼別紙参照

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率： 92% (新入院患者数1,300名/月) ・ 手術室稼働率： 4,900件 ・ 紹介率： 75% ・ 逆紹介率： 90%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)